



園だより

令和 7年 9月 1日
目黒区立大岡山保育園園長

例年以上に厳しい暑さの中、プールや水遊びを通して子どもたちの発見や気づき、成長をたくさん感じた夏となりました。登園時間等のご協力ありがとうございました。

8月半ばにぶどう組で子どもたち主催の「ぶどう祭り」が開催されました。園の夏祭りや近所のお祭りの経験からある子が「おまつりやろうよ」とつぶやき、その一言にクラスのみんなが共感しすぐに準備が始まりました。「何のお店を出すか」「必要なものは何か」「お客さんはどのようによぶか」など祭り開催に向けて準備することがたくさんありました。友達と話し合いを重ね、チョコバナナや焼きそばなどを作る子、看板を作る子、チケットを作る子など自然に役割分担が決まり、着々と準備が進んでいきました。いよいよ明日が本番となると、れもん組やさくらんぼ組の子どもたちもチケットをもらい、心待ちにしていました。当日は夜店のイメージで部屋を暗くし提灯代わりのライトをぶら下げ、お店が6店舗、最後は盆踊りもある見事なお祭りとなりました。小さいクラスの子や職員も参加し、たくさんのお客さんを楽しませてくれた活動となりました。

日々の保育の中で、このような子どものつぶやきを実現することはとても大きな意味があると考えます。子どもたちはこれまでの保育の中で、アイディアを出し合い物を創り出す力、人と関わる力、楽しさや喜びを友達と共感する力、あきらめずに取り組む力など様々な力を培ってきました。年長クラスの子どもたちがその力を存分に発揮し、生活や遊びを自分たちで作り上げていく姿はまさに目指す子ども像と言えます。年長に至るまでの過程の中で、周りの大人に丁寧に思いを聞いてもらい、ありのままの自分を認めてもらう経験を重ねていくことで、その後の自分の世界を切り開いていく力を身に付けていくのだと改めて感じた活動でした。これからも子どもたちの声に耳を傾け、意欲を大切に育てていけるよう職員同士学び合っていきたいと思います。



9月の予定

中旬

引き取り訓練（避難訓練）
身体計測 避難訓練

10月の予定

中旬

運動会（2～5歳児）
※0、1歳児クラスは自由参加です
秋の定期健康診断（0～2歳児）
芋ほり遠足（4・5歳児）
幼児お楽しみ会
秋の定期健康診断（3～5歳児）
焼き芋会（全園児）
身体計測 避難訓練



食育活動

2歳 ピーマンの収穫



調理さんおねがいしまーす



4歳 なすの収穫



楽しかったね！

夏の遊び



0歳児クラス（いちご組）

水遊びを楽しみにしている子どもたちは「水遊びにいこう」と保育士が声を掛けると一斉にテラスの方へと向かい始めます。「あめあめ ふれふれ」と歌いながらしょうろで雨のように降らせると左右に体を揺らしながら、降ってくる水に手を伸ばし笑顔を見せてくれます。「（もういっ）かい」とリクエストしてくれるので、何度も繰り返し楽しんでいました。また、水面をパシャパシャたたいて水しぶきをとばしてダイナミックに遊ぶ姿もあれば、カップに水を入れ「どうぞ」と渡してくれる姿もあります。一人ひとり楽しみ方はそれぞれで、感触を味わったり、試したりしながら五感に触れ夏の遊びを満喫しました。



1歳児クラス（もも組）

春から感触遊びを楽しんできたもも組の子どもたちは、水遊びでも絵の具、泡等様々な素材を使って楽しみました。食紅で色をつけた氷を見せると、そっと触って冷たさに驚き、手を引っ込めてから目をまん丸にして観察しています。また、保育士が氷を洗面器に入れて左右に揺らすと、転がる氷を見てケラケラと笑っていました。ある子がその氷をスプーンですくおうと取りに行っているうちに、暑さでいつのまにか氷が解けてしまいました。戻ってきてからバケツを覗くと「あれ。ない」とびっくりしていて、一生懸命氷を探しているその姿がとてもかわいらしかったです。その後も友達とお互いの洗面器をのぞきあい「ないねー」と不思議さを一緒に楽しんでいました。様々な素材を通して、夏ならではの遊びをたっぷり楽しみました。



2歳児クラス（りんご組）

水遊びの中でいろいろな感触を楽しめるように泡を作りました。どんどん膨らんでいく泡を見て驚いた様子でじっと見つめています。泡が出来上がると「泡だね」と嬉しそうです。両腕をタライに入れて出すと「もこもこしてる」「みてみて」とみんなに見せています。泡だらけの手を水の張ってあるタライに入れて出すと、泡が流れてきれいになった両手をじーっと見ています。そして再び泡のタライに両手を入れて真っ白な手が出てくるとにっこり笑顔を見せ、泡の感触を楽しみました。また、近くにあったキューピー人形に気がつくバケツとジョウロを持ってきてお風呂ごっこの始まりです。泡が人形の目にかかってしまうと「おめめに入っちゃった」と言いながら洗い流していたので「大丈夫だったかな」と保育士が聞くと「大丈夫だって」と安心した表情で教えてくれました。

これからも遊びの中で子どもたちの発想を大切に、イメージが広がるような言葉かけや環境を整えながら関わっていきたいと思います。

